

①題：「肉の人から霊の人へ」(31分)

240203

説教者 : 花田憲彦

聖書朗読 : 使徒行伝 18章 24～26節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト「患難から栄光へ」第26章

「今日、キリストのために働いている人々は、使徒の時代に福音を宣伝した人々が表したように、優れた力を表すことができる。神は、パウロやアポロに、シラスやテモテに、また、ペテロやヤコブやヨハネに力をお与えになったように、今日も、神のしもべたちに力を与えようと待ち構えておられる。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 109番

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 208番

②題：「七日目安息日 vs 主日」(37分)

240330

説教者 : 里内勝己

聖書朗読 : マタイによる福音書 12章 8節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト「教会への証」第6巻 356頁

「私たちは安息日のふちを大切に守らなければならない。一瞬一瞬が聖なる時間であることを忘れてはならない。可能な限り、雇用主は労働者に金曜日の正午から安息日が始まるまでの時間を与えるべきである。彼らが主の日を心静かに迎えらるるよう、準備の時間を与えなさい。そのようにすれば、一時的なことであっても損をすることはない。第4の戒めの冒頭で、主はこう言われた。『覚えよ』。主は、多くの心配事や当惑の中で、人が律法の完全な要件を満たすことから自分を免除する誘惑に駆られたり、その神聖な重要性を忘れていたりすることを知っておられた。だから主は言われた：『安息日を覚えてこれを聖とせよ』。」

始めの讃美歌 : 日基讃美歌 276番「ひかりとやみとの」

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 18番

③題：「わざわざいなるかな」(37分)

240830

説教者 : 藤田昌孝

聖書朗読 : マタイによる福音書 23章 13節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト「各時代の希望」下巻 69頁

「われわれの行為に性格を与え、これに不名誉もしくは高い道徳的価値の印をおすものは動機である。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 114番

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 263節

◆お知らせ

アドベンチストメディアセンターホームページ (<http://www.adventistmedia.jp/video/worship/>)
に礼拝プログラムのファイルを公開しております。週報の作成などご利用ください。